

校訓 「高い理想 清い心 熱い想い」 文責 校長 中原弘之

学校教育目標 「学校と地域を愛し、知・徳・体の調和のとれた児童の育成」

## どこかで春が・・・

佐野靖著「心に響く童謡・唱歌」（東洋館出版社、2000年発行）より引用します。

「どこかで春が」 作詞：百田宗治 作曲：草川 信

- 一 どこかで「春」が生まれてる どこかで水がながれだす
- 二 どこかで雲雀（ひばり）が啼（な）いている どこかで芽の出る音がする
- 三 山の三月そよかぜ吹いて どこかで「春」が生まれてる

解説には、次のように書かれています。

ここで歌われている山里は、おそらくまだ冬のなごりのなかなのでしょう。それでも、まわりのすべてのものが生の律動を取り戻す春は、確実な足取りで歩み寄ってくるのです。冷たい空気の中でそれまで閉ざされていたもの、抑えられていたものが一気に解き放たれ、鮮やかな展開を見せる寸前のささやかな変化を、われわれはときめきをもって迎えます。～以下略～

新型コロナウイルス感染症で抑えられていたものが解き放たれる時期が、いつかやってくると思います。その前のささやかな変化が徐々に表れることでしょう。その時がくるまでしばらく辛抱強く待つことが大切だと思います。

## 徳育推進

佐世保市は、平成24年4月1日に「徳育推進まちづくり宣言」をいたしました。その一環として、佐世保市徳育推進会議が徳育推進カレンダーを作成しています。各ご家庭にも届いていることと思います。

本年のカレンダーにある小学生の標語を、いくつか掲載いたします。「にっこにこ おおきなおくちで ごあいさつ」（小1）、「だいじょうぶ？ そのひとことが うれしいよ」（小2）、「おそうじで 心もみがく ぴかぴかに」（小3）、「ごめんねは なかよしこよしの キーワード」（小4）、「言葉の矢 放つ前に 考えて」（小5）、「しっかりと おじぎで伝える 自分の気持ち」（小6） 校長室前に掲示しているものを児童もよく見られています。佐世保市民みんなが豊かな心を持ちたいものです。

## 祇園歴史の旅（その82）「100周年の祇園小その1（勝手に未来予想）」

100周年の祇園小学校を期待と希望を込めて勝手に予想してみます。校舎前のロータリーに設置された校訓記念碑の前で、祇園小学校創立100周年記念式典が盛大に開催されています。音と光による演出もみごとですが、やはり児童の立派な姿が素晴らしいです。100周年の歩みの児童発表に卒業生を始めとする参加者も目と耳を凝らしています。100年間歌い継がれてきた校歌を在校生・卒業生・現職員・旧職員・保護者・地域の方々に合唱しています。涙をぬぐっている人々もたくさんいます。

在宅で勤務する人も多く、地方や市内周辺部の人口も増えていますが、利便性のいい市内中心部も人気があります。祇園小の児童は今より増えていますが、広くなった敷地と高層化された校舎、広々した教室とろう下、明るくモダンな校舎、開閉式ドームのある運動場などの造りにより、ゆったりとした学習・生活空間が広がっています。中でもびっくりしたのは・・・（次号に続く）

次回（最終号）は、「100周年の祇園小その2（勝手に未来予想）」と題して、祇園小学校の未来を旅してみます…。